

農政の動き 2014年6月27日～7月1日

◇集落営農総収入「3千万円以上」は27.7%

農林水産省は、集落営農活動実態調査結果（2014年3月1日現在）を公表した。農産物の生産・販売を行う集落営農で、総収入「3千万円以上」は27.7%で、法人組織は40.2%に上る。一方、総収入「500万円未満」の割合は24.8%で、特に任意組織では32.1%と多い。新たな農産物生産を予定する割合は32.0%で、法人は40.3%、任意組織は28.3%だった。対象作物は新規需要米が最も多く、法人組織で17.4%、任意組織で13.0%となっている。（2014年6月27日）

◇14年産米 5月の相対価格は1万4467円

2014年産米の5月の相対取引価格（全銘柄平均）は、前年同月比12%（1975円）安の60キロ当たり1万4467円と農林水産省が発表した。前月比では1.3%安となった。全国の集荷数量（玄米）348万1千トンのうち、5月末の事前契約は38%と前年同期比で5減、全国の民間在庫量は34万トン増の224万トンだった。（27日）

◇被災農業経営体の所得水準 前年比5ポイント上昇

農林水産省は、東日本大震災の津波被災地の農業経営体の経営状況（2013年）を公表した。震災前（10年）の被災農業経営体の農業所得を100とした所得水準は、岩手、宮城、福島3県の平均で64となり、耕地の復旧などにより前年比で5ポイント上昇した。県別では岩手が27ポイント増の61、宮城が6ポイント増の67、福島が2ポイント増の56となった。調査は13年までに経営を再開した274経営体を対象に実施した。（27日）

◇13年産国産大豆 需給ひっ迫傾向続く

日本特産農産物協会は2013年産国産大豆の6月の入札結果を公表した。60キロ当たり平均落札価格は、前月比54円（0.3%）高の1万7972円でほぼ横ばいだが、年産累計比では4354円（31.2%）高く、需給はひっ迫傾向が続いている。普通大豆は5373トンが上場され、5145トンが落札された。落札価格は前月比0.5%安の1万7998円となった。特定加工用大豆は1355トンが上場され、1233トンが落札された。落札価格は2.7%高の1万7865円だった。（30日）

◇農産物価格指数 米など価格上昇で102.8に

農林水産省は、2013年農産物価格指数を発表した。10年を基準（=100）とした農産物価格指数（総合）は、米や畜産物などの価格上昇で前年比1.0%上昇し、102.8となった。米は1.5%増の112.8、畜産は6.7%増の107.7で、野菜は0.3%減の98.7、果実は7.9%減

の94.7だった。農業生産資材価格指数（総合）は円安に伴う輸入原材料などの価格上昇に伴い3.4%上昇して106.4となった。肥料は1.9%増の103.6、飼料は10.4%増の119.8、光熱動力は6.2%増の120。（7月1日）

◇肉用牛飼養戸数 6.2%減で6万戸割る

農林水産省は、畜産統計（2013年2月1日現在）を公表した。飼養戸数は、肉用牛は3800戸（6.2%）減の5万7500戸で6万戸を割った。乳用牛は前年比800戸（4.1%）減の1万8700戸。飼養頭数は、肉用牛が7万5千頭（2.8%）減の256万7千頭、乳用牛は2万8千頭（2.0%）減の139万5千頭だった。（1日）